

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570201063		
法人名	有限会社ケアハウスぬくもりの里		
事業所名	グループホームぬくもりの里	ユニット名	南棟
所在地	宮崎県都城市五十町2394-5		
自己評価作成日	平成23年11月3日	評価結果市町村受理日	平成24年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570201063&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570201063&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年11月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○行事やイベント
----------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの日当たりの良い庭園には、木製の長いすや円卓等が置かれ、近隣の人々が散歩の途中に立ち寄って、利用者と一緒にお茶を飲んでもらっている。また、利用者に自立を促し、自信を持たせる取組の一つとして、毎月、理学療法士を招いて、利用者個人々に合ったりハビリを行っている。遠方から来訪される家族には、利用者の居室と一緒に宿泊できる配慮がある。職員は、利用者との日々のかかわりの中で、家庭的な雰囲気大切にしながら支援しており、利用者、職員の表情が明るく和やかである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	訴えを傾聴し、相手が何を要求しているのか、また、体調の変化に気づき、相手を否定せず共感する姿勢で対応しようと心がけている。		「家庭的な雰囲気大切に介護」等が盛り込まれた理念は、開設当初に作られたものであり、運営者、職員は地域密着型サービス事業所の社会的役割を踏まえた理念について検討している。	理念は一度作ったままではなく、地域密着型サービスの意義を職員全員が理解し、現状に合った理念を作り、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげる取組を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店を利用したり、近所の方々と日々あいさつをかわしている。家庭菜園作り、花作りなど、地域の方に教わっている。運動会見学などを行っている。		ボランティアや小学生の校外学習の受け入れを行っている。散歩時は近隣の人々とあいさつを交わしたり、話をしているが、ホームと地域の人々が互いに支え合うホーム自体の取組はされていない。	利用者が地域社会とつながりながら、当たり前の暮らしを続けられるよう、地域の活動や人々との関係性に配慮した更なる取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が通所サービスを利用している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、利用者の身体状況、活動状況、職員の勉強会など実施した事を報告している。		運営推進会議では、ホームの取組内容や改善課題等を話し合い、意見をもらえるよう取り組んではいるが、会議の開催は10か月の間に2回しか行われていない。	運営推進会議は、ホームが地域の理解や支援を得るため、またはサービス向上に生かすための話し合いの機会として、概ね2か月に1回以上開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて取り組んでいる。		代表者は、市担当者とさまざまな機会を通じてかかわりを持ち、相談事には実直に対応してもらえる関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行っており、理解している。夜間は防犯の為、施錠している。		ホームは門扉や玄関の施錠はせず、抑圧感の無い暮らしの支援に努めているが、全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解するまでには至っていない。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、身体拘束をしないケアが実践されるよう取組んでもらいたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見守りを重視し、身体チェックなど心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容は理解しているが、実際に活用はできていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な時間を取り、利用者や家族の方に理解してもらい、契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談員の意見や、利用者の意見には常日頃より耳を傾け、小さな不満でも職員全員で確認し対応している。		家族には、手紙や来訪時に意見や要望を気軽に言ってもらえるよう雰囲気作りに心掛けている。家族から昔なじみの惣菜を食べさせてほしいとの要望があり、食事の献立に取り入れるなど、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、意見や相談、提案がある場合には直ちに運営者に意見を言えるようにしている。また、必要に応じて全員で話し合い、理解し、運営に役立たせている。		月1回行われる職員会議では、率直に意見を出し合える雰囲気がある。利用者とのかわりの中で気づいたことやアイディアは、積極的に運営に取り入れる姿勢がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に集中できるよう、時間や人員の配置には気を使っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会への参加、内部での勉強会を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会などを通じて、勉強会や問題点などについて情報交換など行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の担当者会議の中で、グループホームに入所される意義を理解するよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態、家族関係、要望等を細目に把握し、その人に合った統一のとれたケアを行うようスタッフ同士の意識づけを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩行困難や転倒の危険性が見られる方には、福祉用具の利用があることなどを説明している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の気持ちを汲み取った支援を行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事などに家族の方々を招待したりし、体調や経過など、その都度報告している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの暮らしの中で、その人らしい生活が出来るよう支援している。	竹の子掘りなどの季節の野菜とり、花見に出かけたり、墓参りや自宅での仏壇参りなど、一人ひとりの生活習慣を大切にされた支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行動障害が見られる方のサインに早めに気づき、その人、その場に合った対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、相談事など応じている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議の中で行っている。		職員は、ケアを押し付けるのではなく、家族からの情報や利用者との日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情等からその人の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活された経緯を把握し、サービスの中に取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、個々の心身状態や有する力等の状況の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中で、職員やケアマネと意見交換し、本人の暮らしの中で生活援助を出来るよう努めている。		利用者や家族の思いや意向を聞き、計画に反映させている。また、本人や家族の要望や容態に変化が生じた場合は、随時の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に記入し、情報共有、計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望があれば、いろいろな場面での支援や相談など、随時行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等を行い、避難場所として地区公民館を利用できる体制を整えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの病院を24時間受診できる体制が整っている。		本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診時の通院介助の方法や受診結果に関する情報の共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の看護師を配置し、いつでも状態を把握出来るよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態確認を行い、病状、状態の情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、施設で生活できなくなった時の事を話し合っている。		利用者が重度化した場合や終末期のあり方については、入居時点においてホームの力量や体制を説明し、本人、家族の納得が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の職員が多くいる為、家族に協力が得られるように体制を整えている。		マニュアルが整備され、職員は利用者と共に避難訓練を行っているが、地域との協力体制は築かれていない。	地域にホームの災害時対策に関する理解を求め、更なる協力体制が築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、その人に合った声かけ対応を行っている。		職員は、利用者との会話で否定的な言葉を使わないよう心掛けており、自己決定しやすしい言葉かけをするように努めている。利用者の情報収集や外部との情報連携の際も管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の行動や訴えたい事に気付き、自己決定しやすい雰囲気作りに心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールに合わせるのではなく、その人の状態、気分を考慮した快適な生活を目指している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服選び、タンスの中の整理(衣替えなど)支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の出来る範囲で下ごしらえ、後片付けなどを一緒に行っている。		利用者の好みを配慮した献立の工夫等、食事が楽しみなものとなるよう心掛けている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、一緒に楽しく食事できるよう、雰囲気作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使い、一日の摂取量を誰が見ても理解しやすいよう記入している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけの下、自力で出来る方は側で見守り、出来ない方は全介助など、個々の力に応じた施行。(朝、昼、夕、3回)			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの習慣を声掛けにて覚えてもらい、排泄の自立を促している。		排せつチェック表を利用し、利用者の習慣や排せつパターンに応じた個別の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い副食や水分補給を心掛け、運動等もこまめに行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴拒否がある時は時間をずらしたり、日付を変えたりし、本人が気持ちよく入浴出来るよう支援している。		入浴は強制せず、利用者の希望やタイミングに合わせている。また、入浴剤を利用するなど、利用者が入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のある利用者には、昼間ゆっくり過ごせるように工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、バイタル測定し、記録している。服薬は名前を確認し、飲み込みまで確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なじみの生活が継続出来るよう、一人ひとりを理解し、穏やかな生活が出来るよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望される方には、園外散歩を行っている。施設の年間行事として、地域の祭りの参加、花見、竹の子掘りなどを組み入れている。		利用者は、体調や気分に合わせて庭園での外気浴、近隣の商店への買い物、墓参り、自宅での仏壇参りなど、個々に合った外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、散歩がてら地域の商店で、菓子類のおやつを職員の介助の下、購入したりし、支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などからの手紙や電話がある場合には取り次ぎ、代読、代筆を行っている。訴えがある場合、電話も出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、清潔に心がけている。（掃除機がけ、トイレ掃除、床ふき、手すりふき等）季節に応じて体温調節、冷・暖房機具を使用している。		玄関や居間には季節の花が生けられ、明るく穏やかな雰囲気がある。トイレのドアは長めのカーテンに取り換え、利用者が出入りしやすいように配慮されている。ソファの配置やテレビの音量等、利用者が居心地よく過ごせる環境となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる時は、ソファに腰掛けられ、気の合った方々と座られ会話を楽しまれる。座られる位置も本人が気分を害さない工夫、気配りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を自宅より持ってきてもらい、活用している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、表札や目印など掲示し、今いる場所や自分の部屋が分かるよう工夫している。			